



2022.9.28
こどもの理解と相談支援


こどもの理解と相談支援
(第1回:第1章～第4章)



聖和学園短期大学 保育学科
准教授 山本 信

1

シラバスの確認

授業科目名	単位数	学習形態
こどもの理解と相談支援	2単位	レポート・科目試験

授業のテーマ及び学習成果

こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学びます。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学び、こどもが自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、集団の中で適応的に生活する力を育むことを支援できることを目指します。そのために、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動の在り方について、こどもの発達の状況に即した支援ができるよう、心理的特質や教育的課題を捉える力を身につけるとともに、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行えるようになることを目指します。この授業では、より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学びます。

《学習成果》

レポート：幼児教育の課題と家庭との連携の在り方、心理アセスメントの活用について理解できるようになる。

科目試験：カウンセリングの基本と心理アセスメントの活用、保・幼・小及び家庭との連携が理解できるようになる。

授業の概要


相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学ぶ。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。


2

授業計画

- 1 子どもの実態に応じた発達や学びの把握
- 2 相談支援の基本
- 3 こどもを理解する視点①
- 4 こどもを理解する視点②
- 5 こどもを理解する方法①
- 6 こどもを理解する方法②
- 7 こどもを理解する方法③
- 8 こどもの自己理解を進める技法
- 9 幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド
- 10 幼稚園・保育園における園児への心理的援助
- 11 小学校における児童への心理的援助およびその保護者との相談支援
- 12 相談支援の実際①
- 13 相談支援の実際②
- 14 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援
- 15 相談支援の課題と対応

3


第1章
子どもの実態に応じた発達
や学びの把握



4

第1章のポイント

- 子ども理解の意義
- 養護保育の一体的展開
- 幼児理解を深める教師の基礎的な態度

5

第1節 子ども理解とは

- 「気持ちやこころを理解する」とは？
→ どうしたら「こころ」を理解することができるか
- 「寄り添う」とは？
→ 「何」に寄り添うのか
- 「安心して過ごせる場」とは？
→ 「安心できる場」と「安心できない場」の違い
- 「子ども一人一人を理解する」とは？
→ 具体的に「何を」理解するか
- 「子どもの内面」はどのように理解するか？
- 子どものこころに「届く」と「届かない」の違いは？
- 「こころを育てる」とは？

6

第2節 養護と教育の一体的展開

- 「乳幼児期にふさわしい経験」とは？
→ 「5領域」の内容とねらい
- 「保育士等への信頼」とは？
→ 「信頼している」とは、どのような状態か
- 「個性豊か」とは？

7

第3節 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に必要な資質・力量とは

- 「人間性を豊かにする」とは？
→ 「人間性」は具体的に何を指すか
→ それを具体的に、どう「豊かにする」のか

8

オープンマインド

固定概念にしばられずに他者を認め、自分についても正直に表現できる「開かれたこころの姿勢」

- 他者の存在価値を認め安心感を与えること
- 他者の否定も受け入れ受容感を与えること
- 他者の話す内容に同意できなくても話し手を否定しないこと

9

傾聴

表面上の言葉だけでなく、その時の表情、しぐさなどにも注意しながら、語られない言葉も感じ取る

- 受容的、共感的な態度で真摯に傾聴する
- 聞く姿勢一つで相手の捉え方が変容する
- 子どもや保護者との良好な関係につながる
- 「傾聴のスキル」とは？

10

カウンセリング・マインド

カウンセリング：
言語的および非言語的コミュニケーションをとおして、行動の変容を試みる人間関係
カウンセリング・マインド(ロジャーズ)：
「受容」、「共感」、「自己一致」

- 「受容」＝「ほめる」？
- 「共感している」とは、どのような状態のこと？
- 「誠実にクライアントに向き合う」ために…

11

- 「他者の枠組みから物事を捉える」とは？
→ どのような「力」が必要か
→ 子どもは大人と同じようにできるのか

12

第2章 相談支援の基本について

13

13

第2章のポイント

- 相談支援の基本
- カウンセリングの基本(意義・理論)
- カウンセリングの基本的な方法(受容的態度、共感、傾聴)

14

14

第1節 相談支援とは

- 「入所していない子育て家庭を含めた地域の保護者の支援」のイメージを考えてみましょう

15

15

第2節 保育・教育現場でのソーシャルワークの必要性

- 「子どもを取り巻く環境が複雑になっている」とは、何が「複雑に」なっているのだろうか
- 「今」と「昔」は何が違うのか

16

16

第3節 カウンセリング技法の基本 カウンセリング

心理的な問題や悩みを抱えているクライアントに対して、支援するカウンセラーが、面接によって信頼関係を築きながら、クライアントの精神的な成長を支え、納得した自己決定により、行動に移せるような心理的支援。

17

17

カウンセリングの3技法

傾聴・受容・共感的理解

受容的態度で接するための技法

傾聴・受容・明確化・自己解決を促す・つながる言葉かけ・繰り返し・感情の伝え返し・質問

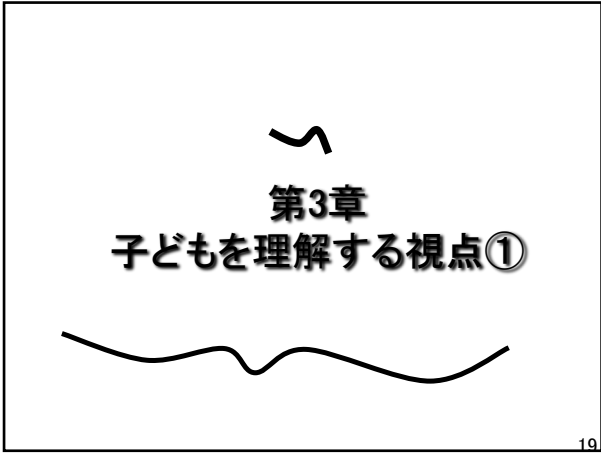
「いつでも・どこでも・だれでも」

目の前にいる子どもたちすべてが対象

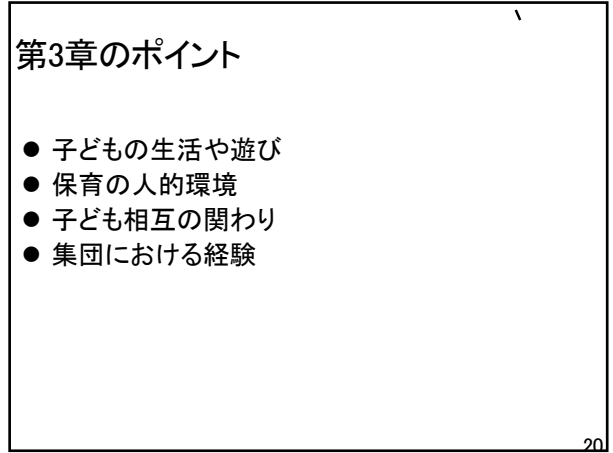
- 自分が(普段の生活で)よく使っている「技法」はありますか？

18

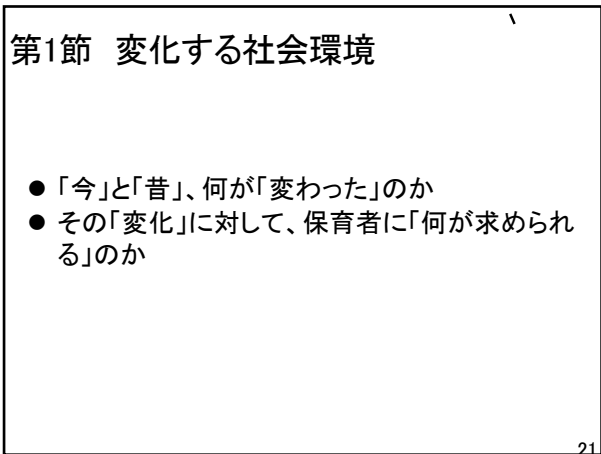
18



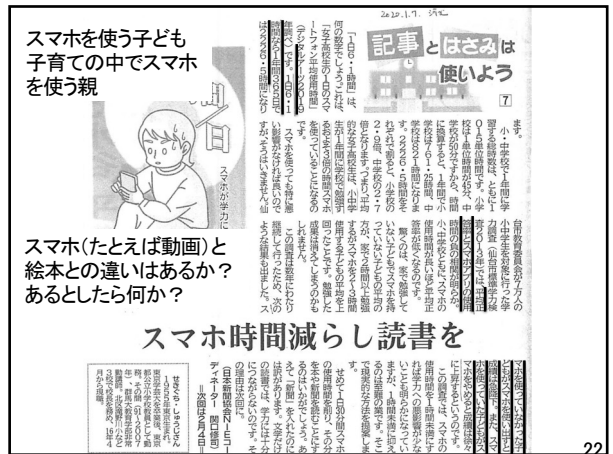
19



20



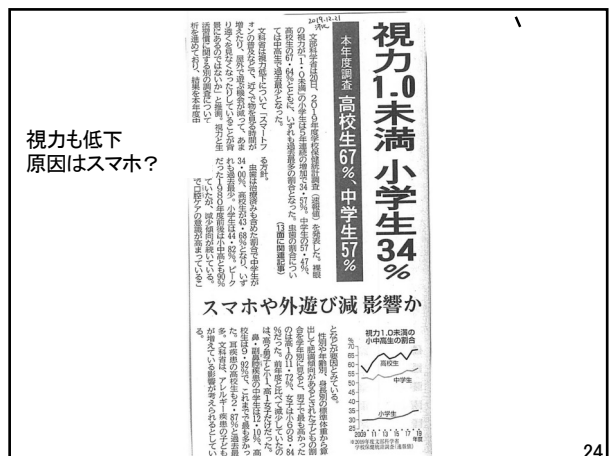
21



22



23



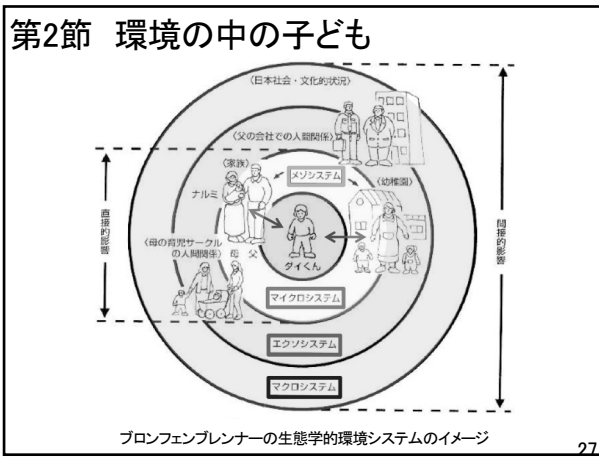
24



25



26



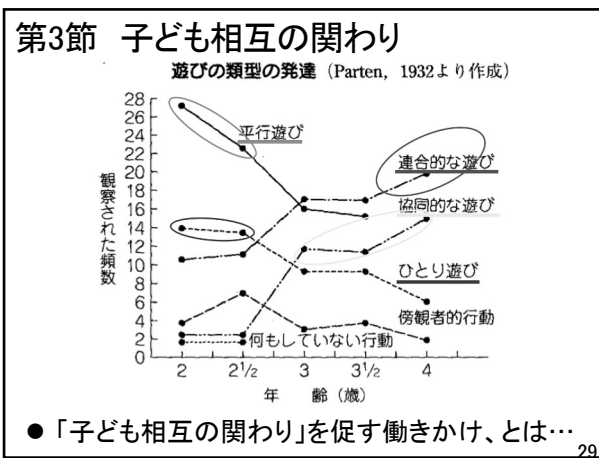
27

保育の人的環境

- 保育者が「環境」とされるのはなぜか
- 「環境」として、何ができるか・何をすべきか

28

28



29

第4章 子どもを理解する視点②

30

30

第4章のポイント

- 葛藤やつまずき
- 保育環境の理解と構成
- 環境の変化や移行

31

31

第1節 葛藤やつまずき

● ピアジェとヴィゴツキーの考え方の違い

内言
→ 思考の道具

外言
→ 伝達手段

「今・ここ」を離れた言語
今日の給食はなんだろう
休み時間はサッカーをしよう
もし雨が降ったら体育館で遊ぼう
「しあわせ」ってなんだろう

集団の中で見られる独り言
自己中心的言語(ピアジェ)
集団的独語(ヴィゴツキー)

内言 → 外言(ピアジェ)
外言 → 内言(ヴィゴツキー)

32

32

第1節 葛藤やつまずき

- 「役割取得能力」の発達に必要なもの、とは
→ 経験・力・保育者の援助などの視点から

33

33

第2節 保育環境の理解と構成

- 「リアル」と「リアルでないもの」の違い
- 「自然」の良さ
- 「命を大切に」、「物を大切に」という気持ちの育ち

34

34

第3節 環境の変化や移行

- 「関係」の「広がり」と「深まり」
→ それを支える保育者の役割
移行、新入園児、けんかの仲裁 etc.

35

35

次回: 10/5(水)

- 第5章: 子どもを理解する方法①
- 第6章: 子どもを理解する方法②
- 第7章: 子どもを理解する方法③
- 第8章: 子どもの自己理解を進める技法

ありがとうございます☆

36

36